

# 最後の思い出作りを…

錦城高校新聞速報版

錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2022

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面…卒業を祝う会  
大特集！  
二面…企画実現に向け、  
尽力する人たち

## 「卒祝会」開催決定！

コロナ禍で2年連続中止となっていた三送会の代わりに、3年生によつて「卒業を祝う会」が企画されている。今回はその動きや企画に関わる人々たちを特集する。

(2月25日(金)時点の情報) (卯・燕)

### 今までの三送会

コロナ禍で55回生の卒業時から中止となっていた三送会。

会。どのような様子だったのか、錦城高校新聞のバックナンバーから調査してみた。

2019年3月1日(金)発行の286号では、コロナ前の最後の開催となった54回生の三送会の記事が掲載されている。三送会では、軽音楽部の演奏や体操部による演技披露、有志による漫才などが行われていた。ステージに上るのは生徒に限らず、先生方で構成されたバンドが曲を演奏する一幕も。さらには先生からのビデオレターを流すなど、かなりの盛り上がりが見られた。

今年度は感染症予防のため3年生のみの参加だが、来年度以降は全学年が楽しめる会を目指すそうだ。

昨年の10月頃に各クラスのHR委員が集められ、話し合いが進められていた卒祝会。企画の実現が難しいなどの理由で話がまとまらず解散してしまい、1度は中止になる可能性もあったそうだ。その後有志から5人が集まり、新たに現在の実行委員が発足した。「協力できることを探して話し合いに参加するうちに、思い出せるものを最後にやりたいと思うようになりまし」と副実行委員長の清水凛音さん(3C)。また、関さんは「他の行事と同じようにこの会も中止になってしまふのなら、自分が動いて盛り上げたいと思いました」と活動再開時の思いを語った。5人での活動中、時間の無い中で考えた企画が時間制限などの都合で白紙になるなど困難もあったという。清水さんは「前例が無かったため、時間がかかることが多かったです」と



玉入れのリハーサルを行う実行委員たち

### 今までは遠くへ

現在企画されている「卒祝会」は、3月15日に57回生のみで行われる予定だ。例年は「三送会」として行われていたが、新型コロナウイルスの影響で2年生が3年生を送るというスタイルが崩れたため、今年度は3年生が主体的に動き企画する形となった。な

「楽しい時間を届けます」

お、今年度は感染症予防のため3年生のみの参加だが、来年度以降は全学年が楽しめる会を目指すそうだ。



「楽しい時間を届けます」



実行委員がクラス委員に説明する様子

大会など時間内に全員が参加できるものにするそうだ。清水さんは「まだ予算の目処が立っておらず、先生方にも先生の見解などのバランスを見て、イメージ実現に向け整えていきたいです」と今後の

「実行委員が引張ってくれているので、がんばってクラスを盛り上げたいです」と前向きだ。最後に今後の意気込みについて、庄司さんは「自分から積極的に盛り上げていきたいです」、小安さんは「みんなで最後に楽しい時間にしたいです」と語ってくれた。

クラス企画係の庄司結衣さん(3E)と小安あいなさん(3E)に話を聞いた。今回のリハーサルを受け庄司さんは「クラス企画係でも細かい動きを見ていく必要があると思います」と話す。小安さんも

これまでを振り返った。1月に入ると3年生の内定者からも参加者を募り、各クラス係も合わせて本格的に実現に向け話し合いを開始。現在の進捗について関さんは「企画のグループ分けが出来たので、運営や実行に必要なことを決めていきます」と話す。当日は国立大学の後期試験の後であるため、事前準備に参加できる人数にばらつきが生まれることが予想される。それを踏まえ、準備に参加できる人数が少ないクラスは当日動けるものを中心に、人数が多いクラスは事前準備や運営というグループ分けにしたという。また、企画は2学期に各クラスで意見が出た「運動をしたい」という意見も取り入れつつ、ミニ運動会やビンゴ

リハーサル

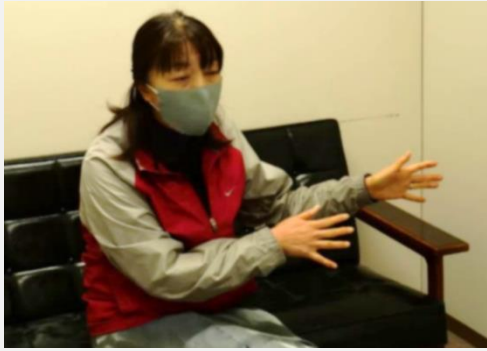
1月26日(水)に、柔道場とホールにて「卒祝会」のリハーサルが行われた。実行委員が中心となり、各クラス2名のクラス企画係も加えて、玉入れや大縄、ビンゴ大会などの段取りの説明と、集計の仕方や移動手順の確認も含む予行演習がされた。

最後に本番に向け清水さんは「今年度は行事が中止になったり、受験勉強で忙しかったりと、クラスメイトと関わる機会が少なかったため、このクラスで良かったと思える行事にしたいです」と話した。また関さんは「全員が『この会があつて良かった、錦城で良かった』と高校生活最後にポジティブなイメージを持って卒業できるような会にしたいです」と意気込みを語った。

「卒祝会」に情熱を傾けているのは実行委員だけではない。担当の先生や企画に携わる生徒、さらに、かつて開催されていた三送会の詳細を知る先生にも迫った。  
(編集部共同取材)

# 横田先生に聞く！三送会の起源とは？

コロナ禍でこの数年中止と、校心が足りず、文化祭などになっていない三送会。その発祥行事もなかなあで終わってしまっているという、横田先生に話を聞いた。横田先生は話す。また、共学の導入は学側も手探りの状態で、35回は、錦城が共学になった代、35回生が3年生になった1999年から始まったといふ。企画を始めたのは横田先生のみならず、当時の生徒会担当の伊藤正典先生、北川資人先生や、すでに退職されている生徒指導部の先生方だ。錦城で初めての女性の教員として、共学になったから卒業していった同期の女性の先生。当時の錦城は「男子校だ」といふのに、元気はあるけど愛している生徒指導部の先生方だ。錦城で初めての女性の教員として、共学になったから卒業していった同期の女性の先生。当時の錦城は「男子校だ」といふのに、元気はあるけど愛している生徒指導部の先生方だ。...



「最初の三送会を実現できたのは先生たちの愛校心とプライドです」

当初は先生が中心となって企画を進め、文化祭実行委員と兼任している実行委員はその補助という形で実施。企画も次第にクオリティが上がってきた。三送会を経験した生徒が、手として考えられたのが、卒祝会だ。卒祝会を通じて「高校生活で誇れるものを1つでも持つてほしいです」と57回生にメッセージを送った。

# 「卒祝会」への熱意を胸に

## 担当、後藤先生の思いは



実行委員と打ち合わせ

「3年生の卒業を祝う会」の準備を実行委員とともに中心となって進めている後藤知子先生に、オンライン上で話を聞いた。各クラスや実行委員から出された企画を実現できるように、アドバイスを...

きた後藤先生。当初は2月28日(月)の登校日から2週間各クラスが準備を進める予定だったが、コロナ対策の為、短時間で準備ができる企画に絞ったという。

後藤先生は「卒祝会」が、錦城祭や球技大会とは全く違う行事であること、また「自分が楽しむ」ことよりも「どのようにして皆を楽しませるか」を考えることの大切さを伝えるのに苦労したそう。最後に「最後のクラス活動、および行事を通じて、自身の高校3年間を振り返り、これまで出会った人に感謝して卒業してもらえたらありがたいです」と57回生にメッセージを送った。

## 映画研究部

映画研究部の高井望来さん(3A)に話を聞いた。映画研究部では「卒祝会」で放映するドラマとミュージックビデオ、CMの撮影をしている。作業を始めたのは12月の中旬頃で、進路が決まった部員5人でほぼ毎日活動しているそう。高井さんは今までを振り返り「流行なども取り入れる必要があるため、脚本が1番大変で1ヶ月ほど掛かりました」と話す。脚本のみならず、ビデオで使用される小道具などもすべて部員で協力して作成しているという。また、完成したもののうち時間内に収まらなかった分は、卒業記念DVDとして後日郵送する予定だそう。最後に高井さんは「思い出も振り返りつつ、楽しんで見て欲しいです」とメッセージを送った。



映研の映像に音声を吹き込む先生

## 運動企画

大綱や玉入れをする予定の運動企画では、細かな内容やタイムスケジュールの考案を先生と話し合いながら行っている。企画に携わっている伯勇貴斗さん(3F)に話を聞いた。伯さんは「リハーサルでは時間に余裕が無く、思っている通りには動けないと実感しました」と話す。そのため、全員が動きを理解して動けるよう「誰が見ても分かる説明」を作成することを目指しているそう。当日の内容が書かれた紙は、各教室にも貼られる予定だ。最後に伯さんは「新型コロナウイルスの影響で色々な制限がありました。せめて最後、短かくても楽しい時間が過ごせたらと思います」と語った。

## 準備に力を入れる生徒たち